

## 水稻の生育情報

生育を見て中干しを開始しましょう

概況（6月10日 水稻定点ほ場調査結果から）

6月上旬は平均気温がやや高く、日照時間は平年と同等でした（図1）。

6月10日時点の水稻の生育は、田植日が例年よりも遅い境町を除き、過去5カ年の平均と比べ、草丈は高く、茎数は多かったことから、葉色は平年並みで推移していたが、4月下旬以降の気温が平均より高く推移したことにより、生育が旺盛になっていると考えられます（表1）。境町を除く調査ほ場において、中干し実施可能な茎数を確保できています。

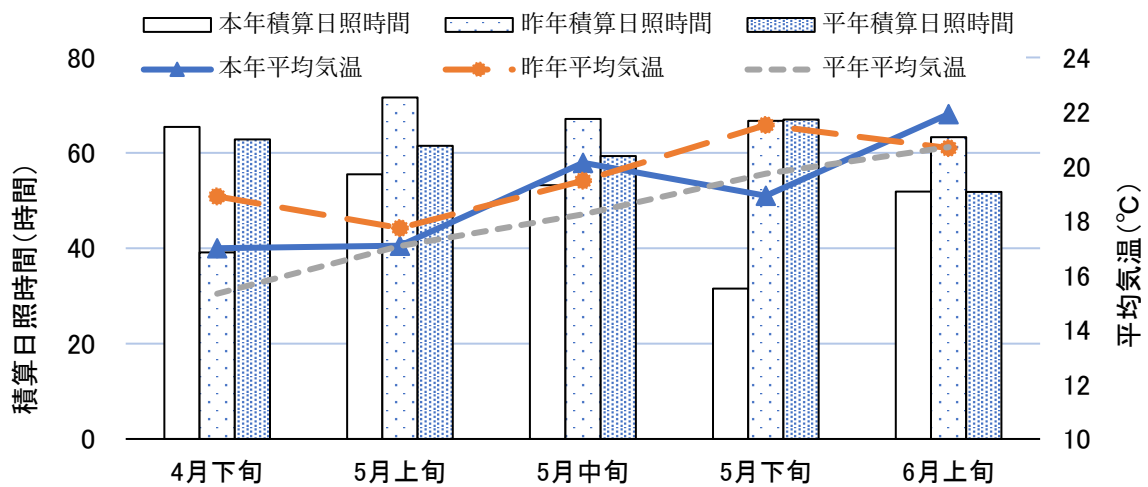


図1 4月下旬から6月上旬の旬別平均気温と日照時間(古河アメダス)  
 (注) 平年値は1991~2020年の平均値

表1 定点ほ場の生育調査結果(令和8年6月10日現在)

品種	調査地点	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	茎数		葉色 葉色板
						(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )	
コシヒカリ	坂東市	4/28	4.6	18.5	46.8	30.3	561	4.6
		(4/25)	(4.8)	(15.5)	(43.3)	(27.8)	(443)	(4.6)
	境町	5/17	4.5	16.7	40.1	17.4	289	4.8
		(4/27)	(4.5)	(14.9)	(45.0)	(27.5)	(409)	(4.7)
五霞町	5/5	6.0	15.9	40.7	31.9	506	4.8	
	(5/6)	(5.1)	(15.6)	(38.9)	(26.6)	(415)	(4.6)	
古河市	5/5	5.1	15.9	46.5	27.3	433	4.6	
	(5/9)	(4.6)	(17.1)	(39.7)	(22.8)	(391)	(4.5)	

※ ( ) 内は過去5年間の平均値

### 今後の栽培管理

茎数を確保したほ場(茎数330~350本/m<sup>2</sup>以上)

では、すぐに中干しを行いましょ。

近年、乳白米など白未熟粒の発生による品質低下が問題となっています。農業研究所水田利用研究室(龍ヶ崎市)の調査では、籾数増加に伴い乳白米の発生率が上昇することが分かっています(図2)。

中干しにより過剰な分けつを抑制することで、総籾数の増加を抑え、乳白米の発生率を低下させる効果が期待できます。

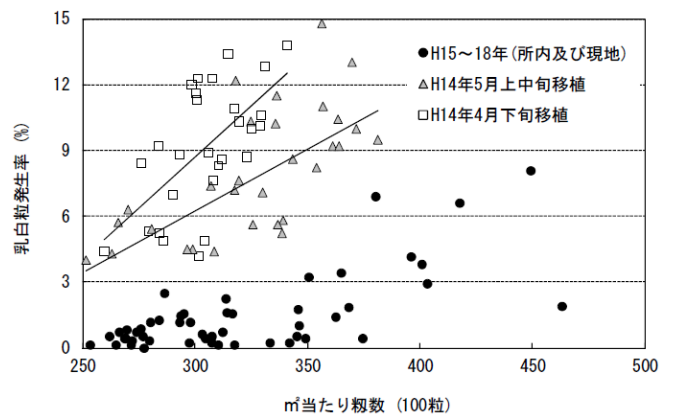


図2 コシヒカリでの乳白米発生率とm<sup>2</sup>当りの籾数の関係  
 (水田利用研究室調査、龍ヶ崎市)